

1 細菌感染症が栄養管理に及ぼす影響

2
3 清宮朋子 鈴木幸子 佐藤正一（千葉県救急医療
4 センター）

5
6 【目的】当センターは三次救命救急センターであり
7 入院患者は急性期の重症患者が多数を占めている。
8 栄養不良により栄養サポートチーム(NST)が介入す
9 る症例は多く、感染症に起因する栄養状態の悪化が
10 疑われる症例も多くみられる。そこで細菌感染の兆
11 候を栄養不良の持続から予測できないか検討した。

12 【方法】2012年4月から9月までの6カ月間にNST
13 の介入の対象となったALB 2.7g/dL以下の患者につ
14 いて、感染症発症の割合、術後感染症発症の有
15 無とALBおよびCRP値の推移を調査した。

16 【結果】対象患者119例中、入院後合併症として
17 の感染症は29例であり、ほぼ全例でCRPの上昇およ
18 びALBの低下傾向が認められた。また培養により明
19 らかな起炎菌が検出されたのは76%であった。入
20 院時に緊急手術を行った29例では術後CRPは上昇し
21 ALBは低下した。手術後の非感染症症例では、3~4
22 日後にCRPは最高値に達し、その後のCRPの下降に
23 伴いALBが徐々に上昇する傾向を認めた。一方手術
24 後に感染症有りと診断された症例では、CRP高値お
25 よびALB低値が長期に渡って持続する傾向を認めた。
26 消化管穿孔により緊急手術した1例では、手術直後
27 のCRPとALBの変動は非感染症例と同様であったが、
28 術後7日後よりCRPが上昇しALBが低下した。そし
29 て12日後の血液培養からMRSAが検出された。

30 【考察】感染症症例や手術後の症例では、いずれも
31 CRPが上昇しALBが低下した。手術の影響は通常7
32 日~10日後には改善に向かう傾向にあるが、感染症
33 を発症した症例ではそれ以降もCRPが下がらずALB
34 が上昇しない状態が持続した。したがってALBとCRP
35 の経時変化の観察により、感染症の存在を予測でき
36 る可能性がある。現在、他の栄養指標となる項目(リ
37 ンパ球数・BUN・Hb)も評価に加え、感染症の有無と
38 の関連について検討中である。

39 連絡先 043-279-2211(内)430